

## 取組施策の概要（案）について

### 前回の振り返り

#### ○第2回活性化協議会（令和6年10月15日 開催）

地域公共交通計画の基本方針、基本目標を検討、一部取組施策の項目を確認

- ・交通空白地域や交通不便地域をわかりやすく表現する必要がある。
- ・「誰もが移動しやすい」とは「移動しづらい人を移動しやすくする」ことである。
- ・運転手不足に対応して交通を維持するためには、地域住民が担い手になることも考えられる。
- ・担い手確保の取組として、幼稚園、小・中学校に出向いて、職業を紹介している例もある。
- ・駅周辺の再整備では、ウォークブル、賑わいの創出も重要であるが、バスの定時性のための待機場所確保など、丁寧な調整をお願いしたい。

#### ○第3回活性化協議会（令和7年1月28日 開催）

##### 【本日の議題】

- ・基本目標を達成するための取組施策の検討

基本目標  
1

移動を便利にし、より暮らしやすくします。

取組施策  
1-1

交通結節機能の向上

複雑な乗換ルートで段差があるなど、交通相互の乗継がしづらいため、駅周辺の交通結節機能を強化することや、外国人の人口増加を踏まえ、外国人にもわかりやすいように多言語に対応した案内サインなどの整備することが、必要となっています。駅や駅前広場の空間が多くの人に利用され、暮らしやすさに寄与するとともに、来訪者にもわかりやすい、交通結節点としての機能の向上に取り組みます。

主な取組の内容

駅まち空間の整備

都営大江戸線延伸による新駅や、西武新宿線の連続立体交差事業に伴い再整備する駅について、多様な交通モードがつながり、誰もがスムーズに移動できるとともに、賑わいが生まれる駅施設や駅前広場などを整備します。

わかりやすい案内サインの整備

事業者ごとに異なる案内サインの統一や、主要な移動経路上に図解サインを設置、多言語に対応した案内板の整備など、案内・情報の充実に取り組みます。

区北西部の鉄道空白地域や未整備の都市計画道路があることを踏まえ、交通インフラの整備等により、区内や近隣区市、都心方面などへのアクセスを向上させることが必要となっています。

駅周辺等のまちなかや、都心方面への外出の利便性を高めるため、鉄道利用圏を拡大します。また、路線バスの走行環境を充実し、定時性の確保を図ります。

## 主な取組の内容

### 都営大江戸線の延伸

都営大江戸線延伸の実現に向け、沿線まちづくりを推進するとともに、東京都と密に連携し、取り組んでいきます。

### 都市計画道路の整備

都市計画道路について、東京における都市計画道路の整備方針（（仮）新たな整備方針）に基づき、関係者と連携しながら整備を進めます。

### 西武新宿線連続立体交差化

西武新宿線（井荻～西武柳沢間）について、鉄道を高架化し複数の踏切を同時に除却する連続立体交差化を実施します。

交通相互の乗り継ぎがしづらい点などを踏まえ、シームレスな移動を実現させていくことが必要となっています。新技術、デジタル技術を活用し、様々な利用者ニーズに対応し、乗継利用の利便性向上に取り組めます。

### 主な取組の内容

#### MaaSの普及促進

経路の案内、予約、支払、割引・特典の付与等を一元的に行うMaaS（Mobility as a Service）等のサービスについて、関係者と連携して普及促進に取り組んでいきます。

#### 乗り継ぎ割引等の可能性の検討

複数の公共交通を利用した場合の割引・特典や、利用距離に応じた料金設定など、乗継に便利な料金の仕組みの可能性について、関係者と連携して検討します。

区内では、大規模小売店舗や病院などが駅施設に集中していることや、複数の観光・集客施設を回る来訪者が少ないことを踏まえ、近距離の移動を便利にすることが必要となっています。区内を手軽に回遊する移動手段の導入や、シェアサービスの利用促進などにより、回遊手段の確保を進めていきます。

### 主な取組の内容

#### シェアサイクルの利用促進

サイクルポートの整備促進や、ヘルメットの利用促進、複合経路検索サービスへの掲載など、シェアサイクルの利用促進を図っていきます。

#### 小型シェアモビリティの導入の検討

手軽に回遊できる交通手段として、小型シェアモビリティの導入を検討します。

区内の案内サインがわかりにくいことなどを踏まえ、乗換のわかりやすさや、移動手段の情報提供などを充実することが必要となっています。

鉄道やバスの経路、駅・バス停の位置などについて、わかりやすく周知するなど移動手段の情報提供に取り組みます。

### 主な取組の内容

#### 区全体の公共交通マップ

区内を運行する公共交通のわかりやすいルートマップを、区と各公共交通事業者が連携して作成し、利用者に周知します。

区内には、上屋やベンチがないバス停があり、バス待ち環境の改善が必要となっています。バス停の上屋・ベンチの整備や、バス停の近傍に待機場所を確保する方策の検討など、関係機関と連携して待合環境の改善に取り組みます。

### 主な取組の内容

#### バス停の上屋・ベンチの整備促進

区とバス事業者等が連携し、区内のバス停について、上屋やベンチを順次整備促進に取り組んでいきます。

高齢者、障害者や外国人が増加していくことを踏まえ、すべての人が、安心して利用できる公共交通にしておく必要があります。バリアフリー化やユニバーサルデザインに配慮した施設の整備に取り組みます。

### 主な取組の内容

#### 駅施設等のバリアフリー、ユニバーサルデザインの整備促進

駅施設等のバリアフリー化を進めていきます。鉄道の延伸による新駅や、連続立体交差化により高架化する駅について、ユニバーサルデザインの駅として整備を進めます。

基本目標  
2

移動が不便な地域の外出手段を確保し、  
日々の暮らしを支えます。

取組施策  
2 - 1

(仮) 移動不便地域に関する検討

交通の状況や区民のニーズにあわせ、公共交通空白地域 に代わる移動の不便な地域の検討が必要となっています。利用者の減少、交通の担い手不足などを踏まえ、従来の公共交通空白地域 の見直しに取り組みます。

交通空白地域の定義：駅から 800m以上、バス停（30分に1便以上）から 300m以上  
離れ、公共交通を利用しづらい地域

主な取組の内容

「(仮) 移動不便地域」の基準の検討

運転手不足により路線バスの持続が困難となっている現状等を踏まえ、地域の実情に見合った、従来の公共交通空白地域に代わる(仮)移動不便地域の基準を検討します。

取組施策  
2 - 2

みどりバスの持続的な運行

少子高齢化や、外出口の減少など、社会情勢の変化を踏まえ、需要に応じた公共交通体系の見直し・検討が必要となっています。みどりバスの役割を踏まえ、運行の効率化や採算性の改善などにより、持続的な運行に取り組みます。

主な取組の内容

みどりバスの再編

公共交通体系における、みどりバスの役割に応じて運行方法を見直し、路線の再編等の検討を実施します。

交通の担い手不足などによる既存交通のサービス低下を補完するため、既存交通と共存する新たな交通手段を導入することが必要となっています。新技術・デジタル技術（AIや自動運転技術など）の活用や地域特性などを踏まえ、新しい交通の導入に取り組みます。

### 主な取組の内容

#### デマンド型乗合タクシー等の実証運行

地域に合った新たな交通手段の導入を目指し、デマンド型（予約型）の乗合タクシー等の実証運行を行います。

利用者の減少、担い手の不足、運行経費の増加などに対応して、交通を維持していくため、行政、交通事業者、地域、企業との連携が必要となっています。地域の企業・団体・区民等が連携してラストワンマイルの交通手段をつくる取組を支援していきます。

### 主な取組の内容

#### 区民等が主体となり運行する交通の検討

地域の企業・団体・区民等が連携して、ラストワンマイルの交通手段を検討する場合には、交通手段の検討から導入に至るまで、「ねりま協働ラボ」の制度を活用するなど、地域主体の取組を支援します。

公共交通機関を一人で利用することが難しい障害者、高齢者の移動手段を確保する必要があります。福祉部門と連携し、外出支援策等を検討していきます。

### 主な取組の内容

#### 外出支援策等のあり方の検討

福祉有償運送や、福祉タクシーの利用助成、民間の移動販売の活用等、今後のあり方について検討します。

基本目標  
3

将来にわたって公共交通を、確保・持続できるように  
します。

取組施策  
3 - 1

## 鉄道・路線バス・タクシーの持続的な運行

交通の担い手不足や利用者の減少を踏まえ、公共交通網を維持していくために、既存交通の再編が必要となっています。従来の公共交通体系を見直し、鉄道、路線バス、タクシーの持続的な運行に取り組みます。

### 主な取組の内容

#### 公共交通体系のあり方の見直し

交通の担い手不足や利用者の減少、各交通手段の役割等を踏まえ、重複を避け、効率的で、新しい交通とも共存する公共交通体系のあり方について、関係者が連携して検討する。

取組施策  
3 - 2

## 公共交通の担い手不足への対応

バスやタクシー運転手の減少など、交通の担い手不足が、進んでいくことを踏まえ、公共交通の担い手確保が必要になっています。交通事業者と行政の連携、新技術・デジタル技術の活用、女性や外国人の活躍促進などにより、交通の担い手確保に取り組みます。

### 主な取組の内容

#### 官民連携した担い手確保の取組

H PやS N S、区主催のイベントを活用した運転手採用広報の支援や、運転手採用に向けた合同就職説明会などを実施します。

#### 自動運転の導入検討

自動運転技術の進展や交通インフラの整備状況などを踏まえ、自動運転の導入の可能性について、関係事業者と連携して検討します。

利用者の減少、担い手の不足、運行経費の増加などに対応して、交通を維持していくため、行政、交通事業者、地域、企業との連携が必要となっています。多様な業種が参画した協力体制を構築し、区内の運行事業者間の連携・調整に取り組めます。

### 主な取組の内容

#### 多様な業種の運行事業者による定期的な意見交換

区内の鉄道、路線バス、タクシー等の複数の運行事業者が集まる場を設け、利用客の状況や乗務員確保等について情報共有と意見交換を行います。

基本目標  
4

地球にもやさしい外出スタイルを、さらにひろげます。

取組施策  
4 - 1

ZEV（ゼロエミッション車）の普及

CO<sub>2</sub>排出量を削減するため、環境負荷の少ない車両に転換していくことが必要となっています。バス、タクシーの車両について、地球にやさしいZEVの普及に取り組めます。

主な取組の内容

バス、タクシー車両の更新時の対応

バス、タクシー等の車両の更新時に、EVやFCVの導入を進めます。

取組施策  
4 - 2

充電インフラ等の普及

バス、タクシー等へのZEV車両の普及には、あわせて充電インフラなど環境整備が必要となります。充電インフラ等の普及に取り組めます。

主な取組の内容

バス、タクシーが利用できる急速充電設備、水素ステーションの整備促進

区内に水素ステーションや急速充電器の普及を促すため、行政による支援を検討します。

環境負荷の低減、健康増進などに向け、公共交通が選ばれる環境づくりが必要です。区民の意識や行動の変容により、地域の公共交通の利用を促進する、モビリティ・マネジメントに取り組みます。

モビリティ・マネジメント：コミュニケーション施策を中心として、知る機会、考える機会、乗る機会等を提供することで、クルマ以外の交通手段を利用する状態へと、意識や行動が自発的に変容するように促す取組

### 主な取組の内容

#### 小学生等の乗り方教室・出前講座などの実施

区、運行事業者、学校等の関係者が連携し、乗り方教室等を行い、公共交通を利用する意識を育み、あわせて運転手が職業の選択肢の一つとなるよう魅力向上につなげます。

基本目標  
5

集客・交流を創出し、まちなかの賑わいに貢献します。

取組施策  
5 - 1

交通インフラの利活用による賑わいの創出

一人暮らしの高齢者人口が増加していくことを踏まえ、公共施設・商業施設・診療所等が集積する、駅周辺に交流し憩える空間を創出していくことが必要です。交通インフラの整備に伴って利用可能となる空間の利活用により、賑わいの創出に取り組めます。

主な取組の内容

鉄道の高架下の利活用

行政、鉄道事業者、施設関係者が連携し、高架下を活用して、子育てや買い物、交流などに資する施設を整備します。

道路空間の利活用

道路空間の再編や、歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の活用などにより、多様に利用でき交流を生むオープンスペースなどを整備します。

駅まち空間の整備（再掲）

取組施策  
5 - 2

イベントや観光施設との連携

複数の観光・集客施設を回る観光客が少ないことを踏まえ、他業種（産業・観光）と連携して、観光資源をつなぎ回遊性を高める取組が必要です。観光・集客施設間の移動が活性化するよう、交通とイベントや観光施設との連携に取り組めます。

主な取組の内容

イベントや観光施設とコラボした企画切符の実施

運行事業者や観光・集客施設の関係者と連携し、イベントや、観光・集客施設とコラボした企画切符、エリア内限定のフリー切符等について取り組めます。

取組施策  
5 - 3

### (再掲) 交通結節機能の向上

(駅まち空間の整備)(再掲)

(わかりやすい案内サインの整備)(再掲)

取組施策  
5 - 4

### (再掲) 移動手段の情報提供

(区全体の公共交通マップ) (再掲)

(スマホアプリ等による経路検索サービス)(再掲)

(高齢者等への出張説明会等)(再掲)

取組施策  
5 - 5

### (再掲) 回遊手段の確保

(シェアサイクル等の利用促進)(再掲)

(小型シェアモビリティの導入の検討)(再掲)